

テーマ

**学校大好き、ふるさと大好き、都跡の子ども**

目標

**地域と連携して、学校園の環境を整え、地域交流を深める**

「学校大好き、ふるさと大好き、都跡の子ども」というテーマで、認定こども園都跡幼稚園、都跡小学校、都跡中学校それぞれでテーマの実現を図りました。学習環境を整えるために、「ゴーヤカーテン」やさつまいも、葉ボタンの栽培やトマトづくりもおこないました。また、読書大好きな子どもたちを育てるためにボランティアによる読み聞かせ活動を行い、季節ごとに図書室の飾り付けをしました。

「ふるさと大好き」の取組として、「第4回都跡ふれあいまつり」を9月27日（土）に開催しました。小学校を会場に体育館では、文化交流を行い、公民館で活動されている方の出演もありました。

12月には、他中学校区の地域教育協議会との情報交換会・1月にはコーディネーターと地域ボランティアによる地域教育協議会報告交流会を開催しました。その他教育講演会や交流会を開催し、大好評でした。これらの取組を通して、地域と学校が一体となり活動を行うことができました。



「第4回都跡ふれあいまつり」を通して、文化交流を図ることができ、新しいコーディネーターの加入を呼びかける機会もつくることができました。また、地域コーディネーターやボランティアの協力によって、学校園は学習する環境が整ってきましたが、園児・児童・生徒との協働作業になりきれず、一方的な支援に止まっている場面が多くありました。子どもたちとの一緒に何かをやり遂げられるような事業の展開を図る必要があります。協議会の活動自体は自治連合会の協力も得て、広報誌・チラシ等を通じた広報活動が進み、より広く浸透させることができました。

来年度に向けては、コーディネーター・ボランティアの高齢化が進んでいるので、若い世代の協力をすすめていくことが必要で、人材発掘の手立てを工夫していくことが急務となっています。また、小学校ではじまった地域コーディネーターとの交流の場を幼稚園・中学校でも実施していきたいです。

地域コーディネーターやボランティアの積極的な活動によって、都跡中学校区の各学校園では、地域教育力が大きな支えとなっています。また、地域教育力の再生や地域コミュニティの活性化を図ることが重要で、そのために、各校園に対して子どもたちと一緒に何かをやり遂げられるような事業を創設していきたいと考えています。

テーマ

**見つけよう地域の宝物 つながろう地域の人々**

目標

**地域の人々との交流を通して、地域の素晴らしさを見つける**

今年度も芝生刈りや雑草の片付け、ゴーヤのグリーカーテンづくり、パンジー・マリーゴールド・葉ボタン・さつまいも等の園芸美化など学校環境整備事業をコーディネータ・ボランティアを中心に充実した取組が展開できました。

吹奏楽部は「第三回都跡ふれあいまつり」で小学校の金管バンドと合同演奏をしたり、幼稚園児を招いて体育館でふれあいコンサートを行いました。また、3年生が認定こども園都跡幼稚園で保育体験をし、生徒会の呼びかけで有志が小学校と清掃活動やスポーツで交流を行っています。また、地域事業所の協力で2年生が職場体験を行ったり、1年生が「職業人に学ぶ」を実施したりしました。このように、積極的に地域に出向くことを行うことで、地域の人々との交流が深まるとともに、地域の人々の素晴らしさや地域の素晴らしさを発見することができました。



校区に平城宮跡、薬師寺、唐招提寺の3つの世界遺産があり、世界遺産とともに郷土を知り、郷土に誇りをもつ生徒を育てようと取り組んでいます。地域の方々が学校のために積極的に地域コーディネーターとして、またボランティア活動として、参加していただいています。反面、十分な地域との協働活動にはなりきれていない部分も見られ、地域の方々とふれあうことで、生徒の中に自分も地域の一員であるという自覚が生まれることをめざしてはいますが、地域に奉仕作業等でお返しのできていない現状が見られました。また、学校評価では「ボランティアの協力を得て教育環境が良くなっている。」という質問に対して肯定的な回答が多かったですが、まだ「やってくれている」という感が強く、一緒に何かに取り組んだという事業展開にはなりきれていません。

来年度に向けては、一緒に花を咲かせる、一緒に作物を作る、一緒に環境を整えるというように、コーディネータ・ボランティアと園児児童生徒が一緒に作業をすることで、当事者としての自覚を育てる事業を展開すると共に、生徒自らが事業の計画・実施に参画し、「子どもたちと共に地域に活気を」が実感できるような、児童生徒が運営スタッフとして活躍できる場の設定を創造していきます。

テーマ

**都跡で暮らし 都跡で学び 都跡を学ぶ**

目標

**都跡を理解し、都跡を愛する児童の心を育てる**

## 今年度の取組紹介

## ○ 地域懇談会

昨年度までは、学校長・教頭が地域の窓口になっていたのですが、他の教職員と地域の方との距離感が感じられる場面もありました。その解消を目指して、今年度は校務分掌内に「地域教育推進」の部署を設け、9名の職員を配置しました。さらに、教職員が地域の方を知り、地域の方に教職員を知ってもらうために、「地域懇談会」を1学期末に開催しました。



地域懇談会

当日は、軽食を一緒にいただきながら自己紹介から始め、小グループに分かれての懇談と、全教職員が、地域の方と親しく懇談することができました。これ以降、地域の方が来校された場合などは、出会った教職員の方から声をかけるようになり、地域の方にとっての「学校の垣根」を低くすることに大きく役立っています。

## ○ 環境整備：花苗植え

今までも地域の方に花苗植えなどをお願いし、整美していましたが、飼育栽培委員の5・6年生の児童と一緒に、玄関前のプランターに花苗を植えていただきました。一緒に作業をしながら、いろいろなことをおしゃべりして子どもたちは地域の方をととても身近に感じることができました。また、地域の方にも喜んでいただきました。



花苗植え

## 今年度のまとめ

○ 以前から、いろいろな場面で地域の方に支援していただいていたと思います。地域の方々は、「子どものためなら。」とか「子どもと一緒にいると元気をもらえる。」と考えて学校に協力してくださっています。教職員や児童が、このような地域の方の温かい気持ちに実際に多くふれることで、地域をより詳しく知ることができると考えます。地域の方から教えていただくだけでなく、地域の方と一緒に活動する場面を増やしたり、教職員が地域の方と顔なじみになって気軽に声を掛けあったりすることで、学校と地域がより近い存在になって、一緒になって児童を育てていく大きな一歩になったと考えます。

## 来年度に向けて

○ 児童から地域の方が見える。教職員から地域の方が見える。そんな関係づくりの一步を進めることができたので、来年度以降、この歩みを大きなものに、より進んだものにするために、今年度の地域と学校（教職員や児童）が触れ合う場面を確立・拡大していきたいと考えています。

テーマ

**「いいこと考えた！」子どもが遊びを創る保育**

目標

**地域の教育力を活用して豊かな体験をし、子ども自ら遊びを創ったりいろいろな活動を通して、自尊感情を高める。**

## 今年度の取組紹介

## ○『トマト栽培活動からキャリア教育、世界遺産学習へ』

地域のボランティアの方のご協力でトマトの栽培をした。

収穫したトマトをどうするか子ども達と相談し、ジュースにしてふれあい祭りや世界遺産学習全国サミットの会場や市役所で販売した。収益金と地域の方々と拾ったどんぐりを鹿愛護会に寄付したことで世界遺産を大切にすることに役立つ喜びを地域の方と共に感じることができ、子どもたちの自尊感情の高まりにつながりました。



## ○『園庭整備を通して子ども自ら遊びを創り出す保育』

地域の方々に協力いただき、子どもが夢中になって遊べるような園庭整備に取り組みました。自分たちで遊び方を考え、何度も試したり工夫したりしてうまくいっても行かなくても、それを面白がり自分で「こうしたらどうなるだろう」と新たな予想をたて遊びを創り出す力が身に付いてきています。



## 今年度のまとめ

○5歳児の子どもたちは、去年の取組を見ていたので「今年は自分たちのやり方でやりたい。」と、ジュースの名前をプレゼンをしてみんなで考えたり看板やのぼりを工夫したりし、意欲的に取り組んだ。今年はたくさん収穫できたので、市役所でもジュースを販売させてもらい、多くの方と関わることが出来、キャリア教育にもつながった。

○地域の方の協力を得て、子どもが夢中になって遊べる園庭整備を進めてきたことで、試したりあきらめずにねばり強く取り組んだり友だちと一緒に考えを出し合いながら自分たちの思いを実現し遊びを創り出していく力が育ってきています。

## 来年度に向けて

○地域の方と共に取り組むことで子どもたちの経験が豊かになり、一人一人が充実感を味わった。また、認められていくことで自己肯定感をもつことができた。来年度もさらに保護者や地域の方との連携を密にしながら、子ども自ら遊びを創る保育を目指して、子どもと共に教材や遊び場作りを充実させ、地域の方の教育力を生かし、地域の方々と共に学び、共に取り組んでいきたいと思えます。